

(内灘町職員研修)

## 「男女共同参画 自分育てと地域とのかかわり」

平成19年2月1日(木) 午後1時30分より  
301会議室

講師：中央大学法学部教授 広岡守穂 氏



### 講師プロフィール

1951年生まれ、金沢市出身、東京大学法学部卒業

現在：中央大学法学部教授

佐賀県立女性センター・佐賀県立生涯学習センター館長（～H19.3）

内閣府男女共同参画会議専門調査会委員ほか

私は現在、佐賀県の生涯学習センター・女性センター「アバンセ」の館長をしています。男女共同参画社会とは地域づくりであり、生涯学習と大きな関連があると考えています。大人の生涯学習は、学び、能力をつけ、課題の達成や問題解決能力をつけることです。学びは、ステップアップをし、今より一歩踏み出し、NPOを起こすなど、経済的な自立にも繋がっていきます。

アバンセの役割は学びから一歩踏み出そうとする女性を応援することです。その志を持つ女性をバックアップするのにアバンセには何が必要か、私は地域経済の活性化という視点ではないかと考えています。アバンセの事業には税金が投入されており、それならばその分の経済効果がなければならぬのではないかと考えています。自分育てと、地域起しと、まちづくりが一致するような、そんな社会をつくりたいと私自身は「アバンセ館長の物書きになろう講座」を実施し、30人の受講生から3人のプロが生まれました。

又、企業が実施しているCSR（企業の社会的責任 Corporate Social Responsibility）事業を利用し、事業を行うことも考えられます。今年アバンセではジョンソンエンドジョンソンのCSR事業で、「摂食障害に悩む女性」をテーマとしたフォーラムを開催しました。企業がお金を出し、アバンセが企画運営しました。

山梨県で実施した「21世紀未来塾」では、単に学ぶだけではなく成果物まで作成すること、そして行政の役割としてマスコミへ話題の提供も大切と考えました。ここで実施したあるグループの研究で家庭での意識「40代、50代の妻たち100人に聞きました」での現状分析について、最初はすっきりとした分析が出来てこない。それは、分析と批判とは違うという根本についての認識が欠けていたからでした。その点をよく説明し再度分析結果が出たとき、出色のものでした。タイトルは「二人目はアンタが産めし！」このような一歩踏み出すための掛け金を外す役割も、講座の大きな目的です。そして、人材育成には、多様なグループを育て、そして活性化・ネットワーク化することが大切です。

男女共同参画事業には、第1に今申し上げたようなエンパワーメント・女性が力をつけるための事業があります、学びその学びから一歩踏み出そうとする女性を応援することです。

第2に女性の人権の問題があります。これはどこでアンケートをとっても現れる結果ですが、女性の20人に1人が夫や恋人から暴力をふるわれたことがあり、そのうち5分の1が「命の危険を感じるほどひどい暴行を受けている」と回答しています。その対策としては、相談体制を整えたり、講演会を開催したりすることです。苦情を訴えるハードルを低くすることが大切です。

第3として、意識の改革が必要です。今大きな問題となっている少子化についても、男女共同参画の視点が必要です。こんな話があります。ある日の朝のこと、妻が具合が悪いと起きてきません。夫は、「大丈夫か。薬を飲んで今日はゆっくり休んでいるんだよ。僕のことは心配いらないよ。夕食は外で済ませてくるから、何の心配もしなくていいからね」と優しく言って出社します。妻は思います、「なんて人なんだろう、私の食事はどうしたらいいの」と。妻と夫ではこんなに想いの違いがあります。もし、学生時代一人暮らし同士の友人が風邪をひいて同じ状況になった時は、こんな対応はしないでしょう、「何か食べたか。コンビニからでも何か買ってこようか？」ときっと言ったことでしょう。それが妻であるとなぜ違ってしまうのでしょうか。労わっているはずの優しい夫と、冷たいと思われてしまう夫—どう思いますか？

ここで、私の家族のことを言いますと、親の反対を押し切り中学校の同級生と学生結婚した私は長男が生まれたとき22歳、その後5人の子の親となりました。新婚時代、私は幸せで妻と子のために頑張らねばと張り詰めた日々でした。しかし妻は長女が生まれてから「ずーっと子どもと一緒にだよ」「私の人生どうなるのだろう」と不安を口にするようになりました。私は大変だな、休みの日に皆で出かけよう、気晴らしになるだろうと考えていました。「家族サビス」の発想です。3人目が生まれるとき「あの頃は子どもが2人だったから何でもできて楽しかったね」と言ったとき、妻はそうは言わず、子ども達を連れて出かけるのは大変だったと言ったのです。じゃどうすればよかったのかと聞きますと、「僅かの間でいいから私を一人にして欲しかった」と言ったのです。性別役割分業は子育て中に進むように思います。私は妻が幸せでないはずがないと思いこんでいたが、自分が夜泣きする子を妻に代わってみてあげることは考えなかった。一方、妻は自分は母親だから、しっかり子育てをしなければ恥ずかしいと思いつめていたのです。

妻は、子育てが一段落したら羽ばたきたいと願う多くの子育て中の女性と同じように、悶々とした日々を過ごし、様々に苦悩しつつ自分育てにチャレンジしていました。会計士を目指し専門学校へ、大学の聴講生に、子どもをおんぶしてのそれらはどれも続きませんでした。そして、ある日妻が私を変えた日が来ました。食卓にラジオが置いてあり、ラジオ英会話のテキストが一緒にあったので、私は「今度は英会話なの？いつも3日坊主だから、3日毎にドイツ語、フランス語・・・最後は中国語だね」とからかったら、その日妻は一言も口をきかず、ボロボロ涙を流していました。その時私は自分がこれまで大きな思い違いをしていたのではないかと気付いたのです。

多くの女性が子育てをしながらも自分育てを考えており、そのことを夫は理解し、後押しすることが大切です。同じように、職場は働く人々の自分育てに配慮して、生涯学習の機会を尊重し、意識の改革に寄与するよう協力しなければなりません。それから相談については、相談にのる際には、共感し傾聴する（繰り返す）聴き方に心がけ、相手の気持ちに寄り添うことで人として理解することができるのです。

また、最近は孫も次々と生まれ広岡家は増殖中といったところですが、その中の一人に障害を持つ子がいます。その子が生まれたとき「どんな子であっても、大切な命、皆で大切に育てていこう」という妻の言った言葉があります。

一度しかない人生です。男だから、女だからとか、障害があるからないからとか、年をとっているからとか、若すぎるからとか、外国人だからとか、それだけの理由でその人の人生の生き方を邪魔をしない、誰にも公平に自分育ての場所を提供していく、それが男女共同参画の大切なテーマです。

(男女共同参画室要約)